

平成21年12月11日

町民の皆様

厚真町教育委員会

平成21年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について

本町では、4月21日に実施した、全国学力・学習状況調査の結果から、本町の子どもたちの学力や学習・生活習慣の把握、分析を進めてまいりました。

今回、その結果の概要を町民の皆様にお示しし、より一層、学校・家庭・地域と連携した取組を推進するとともに、教育施策の充実を図り、さらに、各学校の教育活動の改善、充実に向けた取組を強化してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(学校教育グループ)

平成21年度「全国学力・学習状況調査」結果について

平成21年12月1日
厚真町教育委員会

文部科学省が今年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」について、本町の調査結果の概要を公表します。
なお、本調査により測定できる学力は、特定の一部分であることをご理解ください。

1. 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証してその改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査期日 平成21年4月21日(火)

3. 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

4. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題(国語A、算数・数学A)	主として「活用」に関する問題(国語B、算数・数学B)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした出題

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5. 調査結果の概要

(1) 全体的な傾向

本町の小・中学校においては、全体として次のような特徴がみられました。

(小学校)

国語Aの平均正答率は、全国・全道に比べ低いがその差を縮めている。国語Bは、全国との差は若干開いているが、全道との差は縮めている。算数Aの平均正答率は、全道を若干上回り、全国より低いものの差を縮めている。算数Bは、全道を上回り、全国より僅かに下回った。

(中学校)

国語Aの平均正答率は、全国・全道に比べやや低く、差も開いている。国語Bは、全国・全道に比べ若干差が開いている。数学Aの平均正答率は、全道を上回り、全国を若干下回った。数学Bは、全道・全国を若干上回った。

(2) 小学校

ア. 教科に関する調査について

(ア) 国語

○ 分析と指導改善のポイント

「言語事項」の中で漢字を読むことはほぼ理解できている。しかし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の一部、記述方式での答え方に課題がある。討論やスピーチなどの言語活動を充実させたり、実用的な文章を実際に書いたり、繰り返しローマ字に触れる機会を設けたりするなど、日常生活や他教科との関連を図った言語活動の指導を工夫することが大切である。

(イ) 算 数

○ 分析と指導改善のポイント

「知識」に関する問題では、整数の加法・乗法、小数と整数の除法、長さの意味や基本的な平面図形の定義や性質の理解は、おおむねできている。しかし、「活用」に関する問題では、基準量と比較量の区別、グラフや表などからの情報の読み取りの問題などに課題が見られる。不十分な説明を適切な内容に改善したり、日常生活における様々な事象との関連を図りつつ、作業的・体験的な活動を取り入れたりするなど、算数的活動の充実を図ることが大切である。

イ. 児童質問紙調査について

○ 結果と分析

全体的な傾向としては、「友達と会う楽しさ」「授業の楽しさ」等学校生活への満足度が高く、地域への愛着や関心が高く、近所の人に挨拶をしている。家庭では手伝いをして、規則正しい生活をしている児童が多い。また、向上心が高く自己有用感を持つ児童が多い。

質問に対して肯定した児童の割合が全国を大きく上回っている項目は次の通りである。

日常生活では、「家の人と一緒に夕食を食べる」「学校に行く前に持ち物を確認する」「近所の人に会ったときにあいさつをする」「人の役に立つ人間になりたい」「毎朝6時から6時30分くらいの時刻に起きる」「8時間以上睡眠をとっている」。

学校生活では、「国語の勉強は役に立つと思う」「算数の勉強は大切だと思う」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「学校で友達に会うのは楽しいと思う」。

ウ. 学校質問紙調査について

○ 結果と分析

児童は礼儀正しく、熱意を持って勉強をしており、授業中の私語は少なく落ち着いている。算数の指導として実生活における事象との関連を図った授業を取り入れているがさらに工夫が必要である。学力調査を参考にして、学校の指導計画や取組に生かし改善を図っている。

(3) 中学校

ア. 教科に関する調査について

(ア) 国 語

○ 分析と指導改善のポイント

「言語事項」は漢字の書き取りに一部課題はあるが、辞書を活用して意味をつかむ問題、漢字の読みや文脈の中で語句の意味を理解し、言葉を適切に使う問題はおおむね理解している。「話すこと・聞くこと」は適切に質問することの問題はおおむね理解しており、的確に聞き取る問題は、十分理解している。「書くこと」は自分の意見を伝えるための適切な材料選びや異なる立場の意見を取り入れ、説得力のある文章を書くことの問題はおおむね理解しているが、主語に対応させ述語を適切に書くことにやや課題がある。「読むこと」は文学的な文章を読んで内容をとらえること、正確に読み取る問題はおおむね理解しているが、詩の表現の内容をとらえることにやや課題がある。「書く」活動・「読む」活動・「話す」活動を密接に関連付けて指導することが大切である。

(イ) 数 学

○ 分析と指導改善のポイント

「数と式」「図形」「数量関係」を総合的に見ると、基礎的・基本的な知識や技能が身につけている。課題改善のポイントとしては、問題解決のために着目する観点を与え、理解させることや考察させることが大切である。また、実生活の場面における問題解決では、事象を単純化した数学の問題としてとらえさせることが大切である。

イ. 生徒質問紙調査について

○ 結果と分析

本町の生徒は規則正しく、きちんとした学校生活や家庭生活を送っている。家族のコミュニケーションづくりのため、家庭では家族そろって朝夕の食事をするよう努めている。また、生徒自身、地域行事などにも積極的に参加し、近所の方にもあいさつをしっかりとするなど、地域社会の一員としての役割を果たす好ましい姿が浮かび上がってくる。

課題としてあげられることは、家庭での学習時間が短い生徒が多い点である。今後家庭との連携を強化し、学習習慣を身につけさせることが大切である。

ウ. 学校質問紙調査について

○ 結果と分析

生徒は礼儀正しく、熱意を持って勉強に取り組んでいる。放課後や長期休業日を利用して補充的な学習サポートを実施している。また、家庭学習の課題についてその評価・指導も行っている。学力調査の結果については、を調査対象学年だけでなく学校全体で活用している。PTAや地域の人は学校の諸活動に協力的でボランティアとして参加している。

6. 今後の取組について

学校では、調査結果を分析して学力の向上のための「学校改善プラン」を策定し、授業や教育の指導に反映させています。しかし、家庭学習の重要さが言われている中で、宿題や予習、復習には取組むもののそれぞれに要する時間が少なく、テレビやビデオ、テレビゲームに時間が多く費やされているなど改善すべき問題も明らかになっています。

今回の調査結果より、今後次の取組が必要と思われます。

- ・家庭における望ましい生活習慣を身に付ける。
- ・宿題や予習、復習などの家庭学習にもっと時間を充てる。
- ・学校では指導計画や取組を検討するに当たり本調査の結果をおおいに生かす。
- ・わかる授業の工夫や個に応じた指導に一層努める。

これらの取組は、学校のみならず家庭との連携そして協力があって効果が上がるものと考えますし、児童生徒の学力向上に大いにつながるものと考えられます。

教育委員会では、本調査で得られたデータを基に、本町の全国学力・学習状況調査検討委員会の分析結果を学校に示して教育指導等の改善を図ってまいります。